

# 逆風の觀光地 道内客に照準

染拡大の影響で、国内外から道内を訪れる観光客が落ち込んでいることを受け、定山渓や層雲峠などの観光業者が道内客の誘致に乗り出している。イベントの入場券が付いた宿泊プランを打ち出すなどして客離れを食い止め、観光需要の底上げを図る。

道内で「17の宿泊施設を開する野口観光（登別）は、子ども料金を一律550円にしたり、1日5室限定で客室を無料でグレードアップするなどの「感謝特別プラン」の販売を始めた。

同社の旅館の宿泊者は、前年比で大幅に減っており、野口秀夫社長は「ターネットは足を運んでもらいやすい道民。事態は長期化する恐れがあり、第2弾、第3弾の対策も打つていかなければ」と話す。

日本旅行北海道は、定山渓、登別、洞爺湖で大型ホテルを展開する万世閣（胆振管内洞爺湖町）と連携し、但泊客に温泉まんじゅうを一人1箱プレゼントするプロモーションの販売を始めた。

万世閣は中国人団体客を中心でキャンセルの影響を受けており、定山渓の「ホ

守本直人係長は「地元の人  
が温泉に行く」と思うきっ  
かけになれば」と語る。日  
本旅行も「好評なら他にも  
導入したい」と意気込む。  
日本旅館協会北海道支部  
連合会がまとめた1月の道  
内宿泊実績は、前年同月比  
5・8%減の53万2060  
人。感染拡大で、国内客に  
も旅行を控える動きが広が  
っているとみられ、2月は  
さらに落ち込むことが予想  
される。

まで)の入場券、町商工券が発行する500円の商品券がセットになった「体験宿泊プラン」の販売を今16日から始める。

層雲峠地区では1~3月宿泊キャンセルが約3千分出している。日韓関係悪化で主力だった韓国人客が年夏から激減する中、中国人客の減少も重なり地域飲食店や酒蔵を回る時に済への打撃は大きい。同会の中島慎一事務局長は「でもうえたら」と話す。

泊原発の放射性廃棄物過少報告をめぐる構図

放射性廃棄物  
管理部門

```

graph LR
    A[設備設計部門] --> B[原発の設計書]
    B -- "2倍に補正する必要性を認識" --> C[口頭などで情報共有せず]
    C -- "X" --> D[測定装置]
    D -- "2倍に補正する計算式を設定せず" --> E[報告]
    E -- "国などに誤って報告" --> F[少なに関わること]
  
```

The flowchart illustrates a process starting from 'Equipment Design Department' (設備設計部門) leading to 'Original Design Document' (原発の設計書). It highlights the need to recognize the necessity of a 2x correction. The next step is 'Information sharing through oral communication' (口頭などで情報共有せず), which is marked with a red X. This leads to 'Measurement Device' (測定装置), where the need to set up a calculation formula for a 2x correction is overlooked. Finally, the process ends at 'Report' (報告), which is described as being submitted to the country with errors, leading to minimal involvement.

客室無料格上げ お菓子贈呈 イベント券付きも



日本旅行のプランで申し  
込むと1人1箱付く

活放出量 情報共有せず

道電力は泊原発(後  
泊村)から大気中に  
放出する放射能の量を

てはいる放射性廃棄物が半分以上も減らすことができる。31年間実際より半分以上も減らすことができる。

明した。その設計書を  
た放射性廃棄物管理部  
、放出量の測定装置に  
こう

過少報告問題、総割り浮き彫り  
和彦性

者を見た北電の勝海舟は、この問題を「わざわざ見過ごとながつた」とした。北電は、部門間で重要な情報をなく引き継ぐ仕組みをすることなどを再発防ぐに盛り込んだ。

カミ観光（札幌）はす。北海道観光振興機構はこのテーマで「Mを置く」「道と重慶」ながら、需要喚起策を検討してきたい」としている。（本井彩芳）

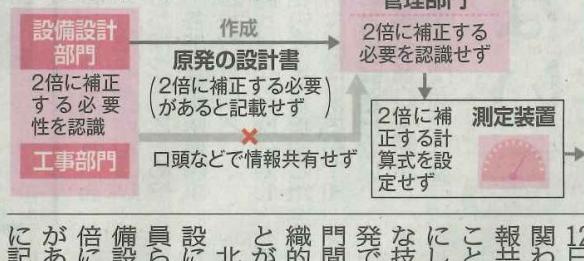
わた

題  
る

題の

見過

北電 ごじ



き彫りになつた。は泊原発の設計・建設を行つてゐた当時の社聞聞き取りを実施。設部門が、放出量を2正して計算する必要ことを原発の設計書していなかつたこと

き彫りになつた。は泊原発の設計・建設を行つてゐた当時の社聞聞き取りを実施。設部門が、放出量を2正して計算する必要ことを原発の設計書していなかつたこと

りとりに終始、補正すると  
いう重要事項について、口頭  
などでも伝えていなかつ  
た。

さらに、原発稼働後も、  
管理部門が設備の運用方法  
に誤りがないかどうかの再  
確認を怠ったことが、長期  
(佐)

「災害リスク学」は「津  
害など過酷な状況で  
連携不足で安全に対処  
せず、大事故を招く恐れ  
ある。風通しの悪い企業  
を根本から改善する必  
要がある」と指摘する。